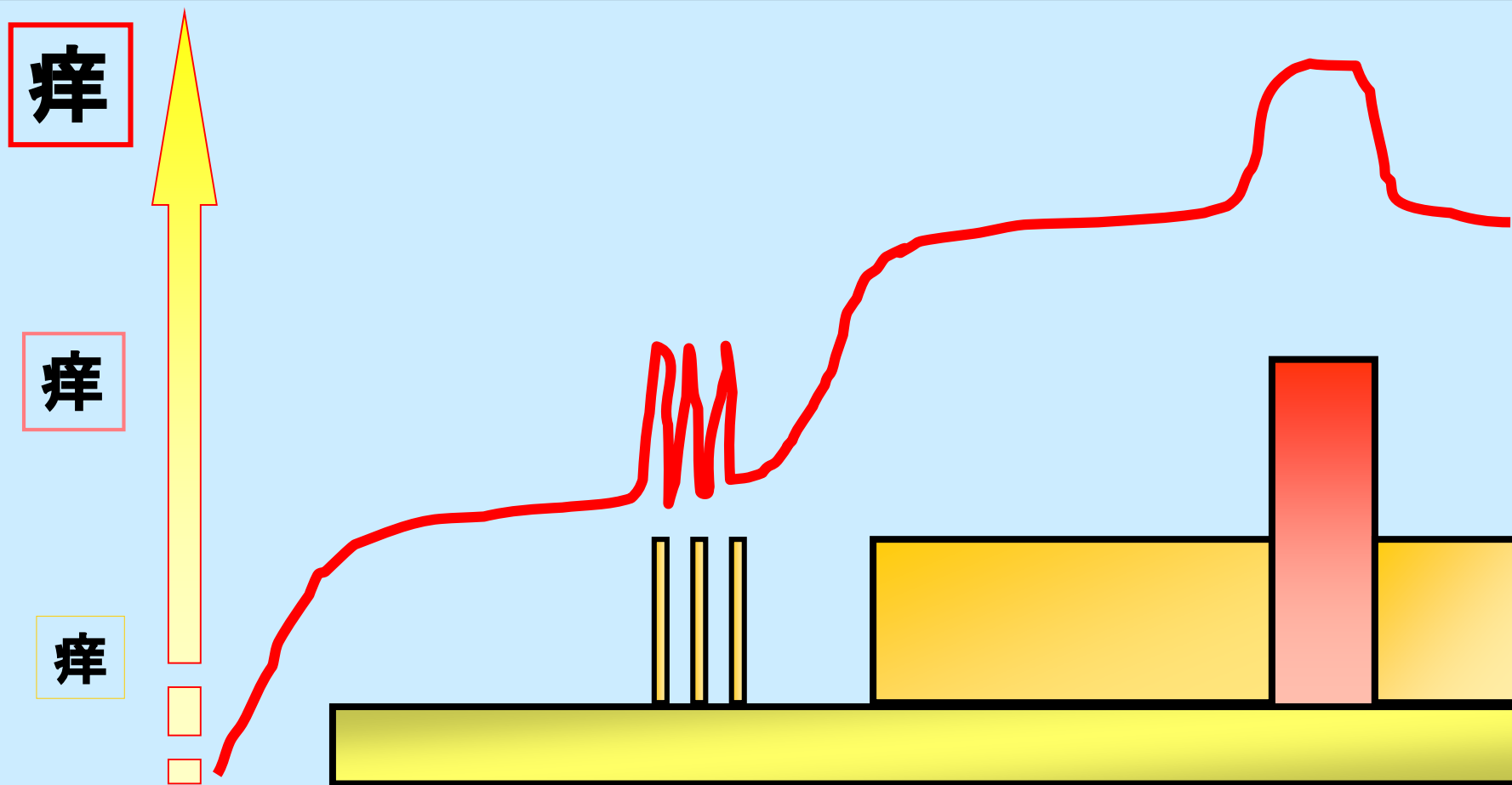





花粉症の治療



さいとう眼科の花粉症治療 (症状から→治療へ)



-  高用量ステロイド剤 :通院目安 1~2週間以内
-  低用量ステロイド剤 :通院目安 2~3週間以内
-  抗アレルギー剤 :通院目安 1~2ヶ月毎

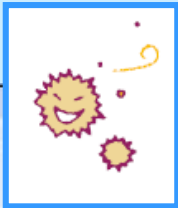
点眼薬による治療（抗アレルギー剤）

花粉による季節性アレルギー性結膜炎の治療には、主に点眼薬を用います。

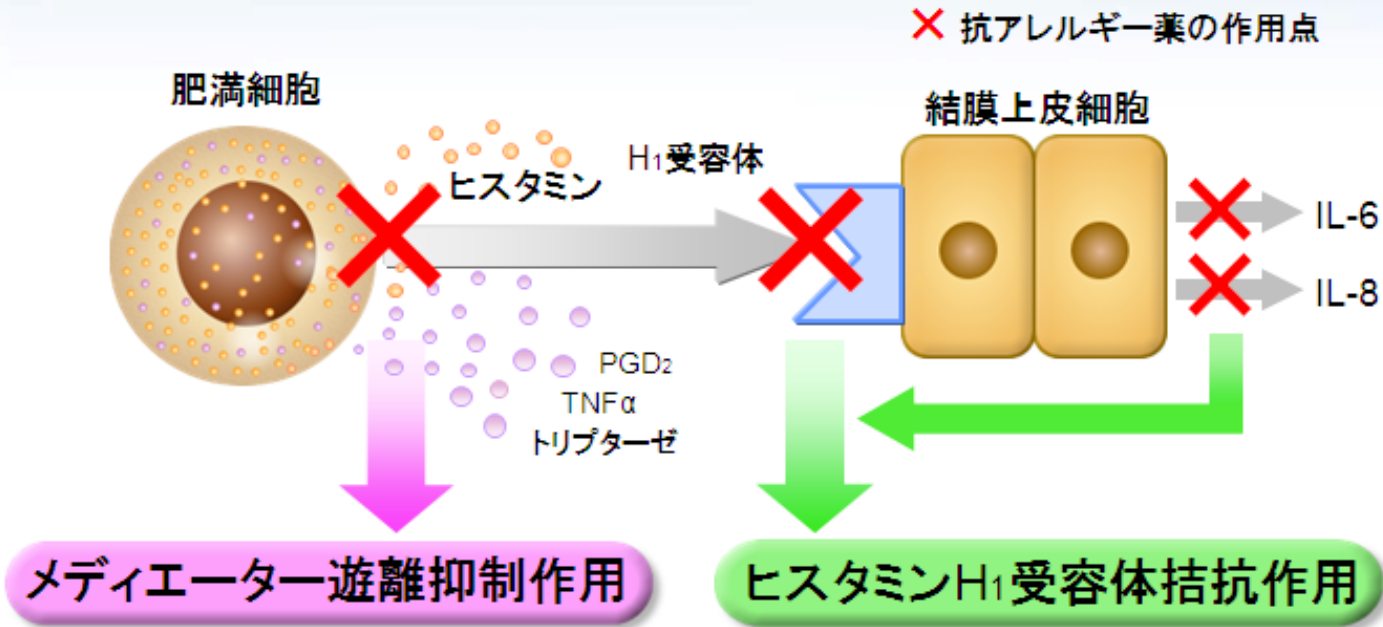
- **メディエーター遊離抑制薬**（メディエーターの遊離を抑制するお薬）
肥満細胞からアレルギー症状を起こす物質が出ないようにします。
初期治療に使用されることが多い。安定化に約2週間かかります。
- **ヒスタミンH₁受容体拮抗薬**（メディエーターの作用を阻害するお薬）
血管や神経の受容体にヒスタミンがくっつかないようにブロックし、目のかゆみや充血などが出ないようにします。**早い効果が期待できます。**

メディエーター = 化学伝達物質

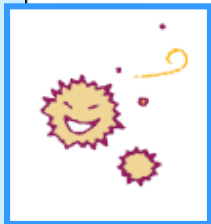




抗アレルギー薬の作用点



眼アレルギー症状(痒痒感・充血)の改善



初期治療を始めましょう！

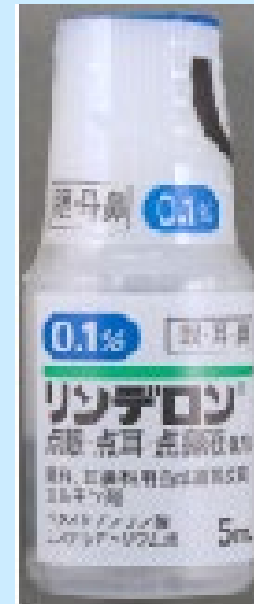
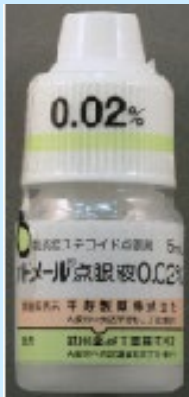
花粉症が悪化してから治療を始めると、お薬は効きづらく、症状もなかなか改善しません。花粉が飛散する**2週間くらい前**から薬物療法を始める**初期治療**という方法が推奨されています。

「症状が現れる時期を遅らせる」、「症状を軽くする」、
「症状がみられる期間を短くする」、「薬剤の使用を少なくできる」など、
多くのメリットがあります。



前年の気温や地域によって違いますが、早いところで2月頃から花粉が飛散し始めます。

花粉症治療（低用量ステロイド点眼療法）



< 低用量ステロイド点眼療法 >

さいとう眼科では、

時として、強い、怖いと言った間違ったマイナスイメージが
多くあるステロイド剤を、効果的に適宜使用します。

<低用量ステロイド点眼療法> とは、

一般的なアレルギー性結膜炎治療薬である
抗アレルギー点眼剤の効果では満足できない患者様に対して
行われる治療法です。

确实、かつ迅速に、かゆみ、充血、浮腫といった花粉症の症状が軽減されます。

上手に使用すれば、これ以上、頼りになる薬はありません。

**副作用として代表的なものには、
眼圧上昇がありますが、医師の指導のもと使用し、
定期検査を怠らなければ、何も恐れるものではありません。**

**内科や耳鼻科で使用されている内服薬、点鼻薬の中にも、
ステロイドを含んでいるものが多々あります。
局所投与であれば、全身副作用は少ないものですが、
使用が長期に及ぶ場合は、必ず眼科を受診するようにしましょう。**

参考：点眼薬の種類（抗アレルギー剤）

メディエーター遊離抑制薬



ヒスタミンH1受容体拮抗薬



* : 両方に属します

参考：市販薬との違い



15ml
1500円



13ml
1580円



5ml (15ml)
235円 (705円) *注

クロモグリク酸Na 1%
プラノプロフェン 0.05%
マレイン酸クロールフェニラミン 0.015%

クロモグリク酸Na 2%

濃度2倍

市販薬でも配合されると高価になります！

*注 保険3割負担の場合